volume 122

変わる日本の「暮らし」と「まち」

学んで・暮らして・盛り上げる 大学生の力で団地を元気に！

神奈川県横浜市　左近山団地
左近山団地における大学生による地域支援活動事業　2017年●平成29年～

阿部民子　text by Tamiko Abe
illustration by Shigeyuki Sakata

横浜駅から相鉄本線に乗って快速で15分の二俣川駅。地名の二俣川は、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で、鎌倉武士の鑑と称された畠山重忠の乱、「二俣川の戦い」で話題の場所。二俣川駅近くには北条軍が陣を構えた万騎が原、隣の鶴ヶ峰駅周辺には合戦の地や重忠公の首塚などがあり、筆者が訪れた日はスマホを手にした歴女やカメラを構えるシニア、中学校の社会見学グループなどでにわかに活気づいていた。

今回取材に訪れた左近山団地は、二俣川駅からバスで15分ほど。公園や広場などを擁する緑豊かな敷地に、賃貸と分譲を合わせて約5000戸を数える大型団地である。

1968年の入居開始から約半世紀が経ち住民の高齢化が進む中で課題となっていたのが、地域活動の担い手不足と地域コミュニティの形成だ。そこで、横浜市旭区と団地を管理するUR都市機構、横浜市にキャンパスを構える横浜国立大学が連携協定を締結。手を携えて、団地の活性化に取り組むことになった。

団地に住んで地域活動に参加

2017年から始まった、横浜国立大学と旭区、URによる大学生の地域支援活動事業。大学生は左近山団地に入居し、地域活動補助金を受給。地域活動への参加や自主的なイベントの企画を行っている。また、UR賃貸住宅の「U35割（35歳以下の契約者を割引）」が適用されている住戸に、割安な賃貸料で住むこともできる。

現在は4名の学生が団地に入居。その他卒業生、大学院生などOBを含めた4名も団地に住みながら一緒に活動を続けている。また、大学の履修科目である地域交流科目「地域課題実習」のフィールドにも取り入れられ、左近山団地に関わる大学生が拡大。文系・理系合わせて27名で活動を行っている。

参加学生で結成したグループ、「サコラボ」の代表を務める建築学科4年の河野奏太さんに話を伺った。

「広い部屋に割安で住めるうえ、まちづくりをしながら地域の人と関われるのも楽しいです。友人が遊びに来たときも、近所のおばあちゃんと話しているのを見て『アパートだったら考えられない』と驚いていました」と話す。

都市基盤学科で土木を学ぶ3年生の中村優真さんは都内在住の「通い」組。「団地を通じて都市計画やまちづくりに関われる、と参加しました。団地は一見閉ざされたコミュニティに見えますが、入ってみると外から来た人を温かく迎えてくれる。そうした良さを伝えて、左近山の交流人口増加や活性化に貢献したいですね」

これまで、団地の夏祭りへの参加や、左官や生け花が得意な学生が講師になったワークショップなどを開催。現在は、小・中学校での学習補助など6つのチームに分かれて活動中だ。9月18日には「映画チーム」が「団地映画祭in左近山」と題した映画上映会を開催。ロングランで人気を集めている『人生フルーツ（製作・東海テレビ放送）』を上映し、住民との交流を楽しんだ。

左近山から全国へ！

学生たちの活動を支えているのが、団地住民と、団地を管理するURだ。団地自治会を中心に地域団体の連携で立ち上げたNPO法人「オールさこんやま」は、大学生の受け入れや活動のアドバイス、地域との交流の場の提供など細部にわたってサポートしている。NPO理事長で、左近山連合自治会会長も務める林 重克さんは「孫のような気持ちで相談にのっています。頑張っている様子を見ると、我々もできる範囲で応援したいと思いますね」と語る。

URの三小田優希も「団地なりのルールがありますが、学生さんたちがやりたい！と思ったことは、できるだけ実現につなげたい。団地内の活動で気を配るポイントや相談窓口のアドバイスをしたり、社内の調整役を買ってでることも。学生さんたちが自立して活動する場面も多く、感心しています」とエールを贈る。

自治会と学生さんたちは本当に仲が良い。

昨年はイベントや災害時に使えるように、と地域の子供たちも加わったワークショップで100キロ以上もある巨大なピザ窯を作成。左近山連合自治会が資金を提供、URが「可動式にすれば実現できる」など具体的なアドバイスを行い、無事完成に至ったという。

3年生の落合佑飛さんはサコラボの経験を礎に新たな活動に挑戦している。「三重県鳥羽市答志島の活性化プロジェクトに参加し、鳥羽市長に僕たちの活動を話したところ、ぜひ見たいと2度も左近山を訪問してくださいました。この経験をまちづくりに生かしたいと6月にまちづくり会社を起業。今後は地方での活動にも繋げたい」と話す。

代表の河野さんは来年卒業後、京都の設計事務所での就職が決まっている。「団地に住んで、まちづくりを中から眺めることができるようになり、地域の人に歓迎される喜びも知りました。この経験を後輩に繋ぐと共に、今後は地方に帰ったサコラボメンバーを中心に、全国規模の活動に広げていけたら」と期待に胸をふくらませる。

左近山団地から始まった学生の輪。これからどこまで広がっていくのか、その先が楽しみだ。

街に、ルネッサンス
UR　UR都市機構
東北の復興まちづくりに 全力で取り組んでいます
［企画制作］新潮社